

1-1 学力調査の結果【国語】

＜全体の傾向＞

県平均よりも正答率が上回っている領域が多く、概ね良好な結果です。しかし、「書くこと」が県平均を7ポイント上回る正答率なのに対し、「話すこと・聞くこと」の正答率は1ポイント低いため、得意な領域と不得意な領域の差があることが分かりました。

【良好な点】

観点では「書くこと」と「読むこと」が期待値を上回りました。特に「書くこと」は領域別、能力別で見ても正答率が高く、問題形式でも記述式の問題は高い正答率でした。

【課題となる点】

「話すこと・聞くこと」と、漢字などの知識の領域が課題です。特に小学校で学習した漢字の正答率が低いのが気になります。

【学校での今後の取組（改善策）】

「話すこと・聞くこと」の学習では、スモール・ステップで課題に取り組ませて苦手意識をなくしていきたいと思います。また、授業の最初に漢字の小テストを実施しています。

1-2 学力調査の結果【数学】

＜全体の傾向＞

「数と式」については、期待値を2.5ポイント上回っています。しかし、「関数」の分野では10.2ポイント下回っています。観点別では、「数学的な見方・考え方」は期待値を1.2ポイント上回っているものの、「数学的な技能」「知識・理解」に関しては若干期待値を下回っています。

【良好な点】

文字式や方程式の分野で期待値を上回っています。基礎活用の分野では「思考・判断・表現」の分野が、期待値を2.6ポイント上回っています。

【課題となる点】

課題となる点では、特に「関数」の領域が低く式の表し方や比例と反比例の相違点などの理解することが必要です。

【学校での今後の取組（改善策）】

関数（比例・反比例）については、今後学習する「1次関数」の授業の中で、関連性を重視しながら復習していく時間を確保します。

1-3 学力調査の結果【英語】

(1) 全体の傾向

正答率が各項目（聞くこと、読むこと、書くこと）とも期待値を10ポイント上回っており、良好な結果です。

【良好な点】

- ・基礎・活用，領域，観点別において全体的には期待値，県，市町村を上回っています。

【課題となる点】

- ・基本的な英単語が書けない生徒がいます（favorite 66%）
- ・英問に対して英語で答えること，英語で たずねる文を書くのが苦手です。
- ・英作文を苦手に行している生徒がいます。

【学校での今後の取組（改善策）】

授業のはじめに行う簡単な英会話を，今後も継続していきます。また，簡単な語彙を使って書く工夫をさせます。英作文を添削する機会を増やします。

2 学習状況調査の結果

(1) 2学年全体の傾向

- ・学校に行くのが楽しい・どちらかといえば楽しいと感じている生徒は84%います。
- ・家庭では，自分の趣味の時間（ゲームやインターネットを除く）に最も時間をかけているようです。
- ・携帯電話等の情報端末を所持している生徒は58%います。また，平日に携帯電話等を利用しない生徒は23%，1時間未満利用している生徒は33%います。

(2) 家庭学習について

- ・予習を行っている生徒が67%います。復習をしている生徒も同程度であり，予習・復習の両方に取り組んでいる生徒が60%程度いると思われます。